



ヤな予感があったのであるが、案の定、沢は全く平凡。5m滝が1つかかって、快適に直登できたことのみが唯一の楽しみであった。時間にして瀬頭まで1時間半。手応えも見所も何もない沢であった。
(記・)

【タイム】 出合(7:00)→遊行終了(8:30)→出合(9:50)

境界の沢 1984年8月26日

金山町と三島町の境界をなしているこの沢は、その名の通り「境界の沢」と呼ばれている。本名発電所より車で20分、境界の沢出合に着く。出合に掛けられた橋は、「界の橋」となっていた。橋より沢をのぞいてみたら、水溜れしていて、急な傾斜で只見川におちこんでいた。

水溜れしている沢を15分もゆくと、広場のような河原に着くが、ここも水なし。左右から溜沢を合わせた先で、ようやくチョロチョロと水が流れるようになった。

左側に20m程の高さの側壁があらわれてくる。そのあと沢がナメ状となってきたので、滝を期待するが、なかなかでてこない。左岸に15m程の側壁が見えてくると、また沢は水が溜れてしまった。

なおも上流に行くと、今度はヤブがおおいがぶさってくる。ヤブをかき分けながら行くと、左側に高さ10m、幅30mぐらいのスラブ帯がみられた。

再び沢の水は溜れる。やがて二俣。左俣をとる。やっと出てきた2mのナメ滝。水なし。滝が出てきたので、一応ここでワラジをつける。

沢はその後、2つのナメ滝をかける。最後のナメを終えると、傾斜がきつくなる。まもなく右から1:1の水壁の支沢が入り、そのすぐあとで本流の水は溜れてしまった。標高900m

地点。瀬頭である。9時45分遊行を打ち切る。

【タイム】 遊行開始(6:55)→終了(9:45)